

協議会等	沼島航路確保維持改善協議会
評価対象航路	沼島航路

二次評価結果

○事業実施の適切性について、評価できる。

運航回数は計画を下回ったが、基本的な感染症拡大防止対策や安全管理規程を遵守した運航を行った結果、悪天候等の不可抗力を除き欠航は発生せず、運航率は計画比99.4%と高い水準を維持した。

また、島民人口が減少する中であっても、島民割引の利用者数は前年度比1,996名増(+8.9%)となった。これは、本航路が通院や買い物等の日常的な移動を支える「生活航路」として、引き続き重要な役割を果たしていると考えられる。

○目標と効果の達成状況について、評価できる。

旅客輸送量は、前年度に初めて14万人を超えた実績を上回り、過去最高を更新した(前年度比1.34%増)。また、直近3カ年平均と比較しても14.9%の増加となった。島民の減少が進む中であっても、工事関係者の通年利用や観光客向けPRを継続したことにより、交流人口が増加した成果と考えられる。

事業収支については、利用者数の増加により収益が計画比4,633千円増加したが、船員費や燃料費高騰等により結果として4,682千円の損失増となった。しかし、航路改善計画に基づく経費削減により、損失は抑制されていると見受けられる。

これらのことから、目標を上回る運航実績や観光需要回復に伴う輸送量増加への取組については評価できる。しかし、沼島港における護岸や防潮対策工事に係る通年利用は一過性のものであり、今後も引き続き、費用を抑制(コスト削減・経費最適化)するとともに、更なる交流人口増加への取組などの経営改善策が求められる。

○まとめ

全体を通して、評価できる。

島民人口が減少する中でも島民割引の利用者数の増加や、旅客輸送量の過去最高の更新など、交流人口の増加という目標を達成した点は評価できる。

今後は、次年度の生活交通確保維持改善計画において、工事需要に対応した利便性の向上や、引き続き、費用を抑制(コスト削減・経費最適化)するとともに、関係者と連携した観光資源の磨き上げによる収益増加策等を検討することで、安定的な航路の確保維持に努められることを期待する。